



「死んだ人を見たい」という三人の男の子が一人暮らしのおじいさんを見張るといふ始まりからは、想像できない展開でした。

三人の心の変化について親子で語り合うことができ、良かったです。

沖田 ゆかり(母)

「この本、よかった！」(7)

『夏の庭』 湯本香樹実 (徳間書店)

今月は熊野東中学校からです。

沖田 恵(中三)

私がお薦めする本は「夏の庭」です。次はどんな展開になるのかわからないドキドキ感が面白く、読みやすかったです。私はこの本を読んで考えさせられたことがたくさんありました。

「くまどく」で家族にっこり

「0歳から中学3年生まで」子どもと家族が同じ本を読んで話す熊野町の家庭読書、町内でも広く知られるようになりました。

3年目を迎え、教育委員会では、熊野町独自の呼び名をつけようと、幼稚園、保育園、小・中学校から愛称を募集しました。先生方をふくめ700件近く寄せられた案を検討した結果、「くまどく」と決定しました。

「週に2回15分間、家族と同じ本を読み、ノートに本の名を書く」のは、これまでどおり。さらに、熊野の中学生は毎月2冊の本を読むこともめざします。

本を読む楽しさ、そして家族とそれを話す時のうれしさ。笑顔とコミュニケーションが、新しい愛称「くまどく」で、さらに広がっていくことを願っています。

(生涯学習課)

第11回 将棋名人戦大会結果

- 【A級】 優勝 馬上 弘道
準優勝 花木 光公
三位 藤井 儀守 森 俊文
- 【B級】 優勝 東閑 勝
準優勝 広本 俊陽
三位 住井 淳一 北橋小次郎
- 【C級】 優勝 江本 洋治
準優勝 青森 大輝
三位 井上 勇 木村 泰英

(2月16日(日)開催、敬称略)

▽主催：日本将棋連盟安芸熊野支部香車会



(生涯学習課)

第12回 子ども将棋大会結果

- 低学年の部
- 優勝 直井 真也
準優勝 山崎 日向
三位 竹本 拓実
三位 坂本 瑞輝
- 高学年の部
- 優勝 新田 伊織
準優勝 守田 俊介
三位 中台 奨馬
三位 釜山 颯一郎



(2月22日(土)開催、敬称略)

▽主催：日本将棋連盟安芸熊野支部香車会

(生涯学習課)

卒業作品展・卒業演奏会

熊野高等学校

この地に(215)

2月18日(火)から23日(日)まで熊野高校芸術類型では3年間の集大成として広島県立美術館で卒業作品展を行いました。

本年度は全国レベルのコンクールでの受賞も多く、レベルの高い作品展となりました。NHKをはじめ、朝日新聞や毎日新聞にも取り上げられ3,114名の来場者があり、昨年の2倍以上の人に作品を鑑賞していただきました。22日には生徒一人ひとりが自分の作品の前で解説し、その後、広島大学・安田女子大学の先生に講評をしていただきました。当日は会場に入りきれないくらいの人でにぎわい大盛況でした。また、同日の午後から音楽コースの卒業演奏会が、エリザベト音楽大学ザビエルホールで行われました。ホールは満席の中、3年音楽コースの9名が7～9分程度の独奏曲を披露しました。難易度の高い楽曲を並べることができ、3年間の成長を実感できる発表会となりました。筆の都熊野町にある熊野高校の芸術類型で学んだことは、今後の人生で大きく役立つことでしょう。



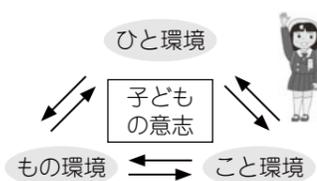
卒業作品展の様子

☎熊野高等学校 ☎854-41155

熊野町 教育委員会 やまびこ (14)

『親であることを常に意識していますか?』(入学説明会「子育て講座」より)

右の図は子どもの育つ環境について描いたものです。おなじみになってきたのではないかと思います。子どもは「育てる」のではなく子どもが自ら「育つ」ように周りの環境を私達大人が作る(整える)のだと言うことですね。家族や友達や地域の人が子どもを認める環境であるか(ひと環境)、家庭生活や学習に必要な道具は子どもの成長に適しているか(もの環境)、家庭や学校や地域の行事を大事にしているか(こと環境)が、子どもの成長に大きな影響力を持っているのです。その環境を作るのは私達大人の責任です。子どもを持つ親の責任です。



今年も小中学校の入学説明会が行われました。小学校は親子で登校し、子どもはお兄さんお姉さんと一緒に学校巡りやふれあいの時間を過ごしました。その間に保護者には入学準備の説明や子育て講座がありました。中学校では親子で共に、中学校の生活や学習、そして3年後に迎える進路について説明を聞きました。小学校も中学校も子どもたちにとって新しい生活環境になることはもちろんですが、親にとっても家庭での生活リズムが大きく変わります。保護者はほとんど全員参加で「目を見開き、耳を大きくして」一生懸命説明を聞いておられました。この時自分が「親である」ことを意識していない人は一人もおられなかったと思います。この時の気持ちを毎日の子どもとの触れ合いで持ち続けることができたなら、どの子も素晴らしい成長を遂げてくれると思います。親も人間、子どものことを忘れて自分本位の生活を選んでしまうこともあるかもしれません。自分の考えや行動が一番正しいと思ってしまうことによって、子どもの「育つ」環境が正常でなくなることも多々あるのです。

有名な幼児教育の大家モンテッソーリの書いた本に次のようなお話があります。『お母さんカエルが小さなオタマジャクシに「水から上がって新鮮な空気を吸い、緑の芝生の上で体を休めてごらん。そうすればみんな強く健康でかわいいカエルになれるよ。さあ一緒においで。ママが一番良く知っているから」と言ったとします。このオタマジャクシが親に従順であろうとすれば、間違いなく死んでしまいます。』モンテッソーリは子どもの可能性を引き出し自主性を育てるにはどうすれば良いかと私達に示唆してくれています。



兄弟でも子どもはみんな違う性格、違う人格です。その子に合った環境を親が作ってやることが親の責任ではないでしょうか。「子どもは親の背中を見て育つ」というのも昔から言われていることです。親として子どもに恥ずかしくない態度で子どもと接したいものです。

(学校教育課)

広告

子育て支援

生徒募集中

読み・書き・そろばんの

サンライトスクール

読み 書き そろばん教室

毛筆、硬筆 書写教室

中溝4丁目9-11 / 東山4-4

Tel 082-854-0101 / Fax 082-854-8800